



今年の夏は災害がたくさん発生しました。被害に遭われたすべての方々にお見舞い申し上げます。思い返せば、2011年3月11日、東日本大震災が起った日、私は東京地裁の大法廷にいました。解雇された我ら客室乗務員の初めての意見陳述の日だったのです。あの日のことは昨日のことのように思い出すことができました。私たちのたたかいは、3・11とともに始まり、今も続いているのです。

9月初めには、北海道で地震がありました。その前々日には、台

風21号が関西地方を直撃しました。そして、その前月には、中国・四国地方が広範囲にわたって多くの家屋や人々を失いました。西日本豪雨と名付けられた大雨は、我が家にも被害をもたらしました。あつという間に家の前の畑は湖となり、かろうじて居住部は床下浸水ですんだものの、納屋と倉庫は水に浸かりました。この地区は、山から水を引いているので、

断水はしませんでしたが、水の色はコーヒーのように茶色く濁り、いきなり停電して、野村町に行く道路も宇和町へ行く道路も土砂崩れで通行止めとなり、孤立していました。

暗闇の中で、自然解凍された食糧をプロパンガスで煮炊きし、スマートフォンの充電は車のバッテリーから取りました。

(裏面へ続く)

## 私も 応援します

### 行動力と情熱にいつも圧倒されています

国民平和大行進愛媛県実行委員会 渡部 玲子

林さん大池さんには、いつもどんな時でもお世話になっています。

自治労連大会の来賓挨拶をはじめ、女性部大会学習会の講師、国際女性デーや「春を呼ぶたごえのつどい」等でのスピーチ。演劇「普天間」ではロビー一番や感想文の執筆、えひめ日本母親大会でも真珠やタオルの物販と訴え。メーデーや原発集会にも必ず参加され、豪雨災害では被災地ボランティアなど、活動はどこまでも翼を広げ、どこへでも出かけて堂々と理路整然と話す姿と行動力は私の憧れです。

自分たちの解雇撤回闘争にとどまらず、すべての労働者の自覚を促し、権利意識を高めて、みんなで社会を良くしていこうという

気概にいつも圧倒されています。

また平和行進や平和資料館をつくる運動に関わっている私にとって、パイロット原告団長の山口宏弥さんの講演や著書「安全な翼を求めて」は大変勉強になりました。民間航空機が平和憲法のもとで安全に飛行してきたこと、日米安保によって安全が脅かされつつあることなどを知り、誤った方針に対しきっぱり反対する労働組合がどうしても必要なことなど、これまで見えなかった角度から様々のものが見えてきました。

学び、闘い、あと一押し共にがんばりましょう！

人間は一人では生きていけない

西予市在住 大池ひとみ

## 解雇争議の早期解決を求める 「要請ハガキ」にご協力ください

5月14日にJAL経営が、「これまでの労務方針を変更し、解雇争議の解決に踏み出す」との対応を示し、特別協議が始まっています。

6月19日のJAL株主総会では、山口宏弥乗員団長の発言に対して植木義晴会長が「ご意見を尊重して解雇争議の解決に向け、組合とも誠心誠意話し合う」と答弁しました。赤坂祐二社長も就任直後の経営協議会で「できるだけ早期に解決したいと心から思っている」と発言しています。

JAL経営に対し当該2労組が提出した4項目の「統一要求」に基づき、解雇争議の早期解決を促すために、植木会長、赤坂社長宛てに「要請ハガキ」を集中させて下さい。

第1次締切 10月31日までに投函お願いします

日々の暮らしで精いっぱい、とても他人のことなんて、と思わず、ほんの少しでいいから、寄り添ってほしい。忘れないでほしい。今回の災害で感じたことは、「人間はひとりでは生きていけない」ということ。切羽詰まつたときに、人間の本性が出る、ということ。そして、何事にもめげず、諦めてはいけない、ということ。

会社は方針を変えて、「解決に向かって話し合いに応じる」と言つてきたわけですから、それは、支援者の皆様と原告たちのがんばりのおかげ。

もうあとひと踏ん張り、さらなるご支援をどうぞよろしくお願ひ致します。

9月8日 愛媛労連第30回定期大会



8月31日 徳島市内オルグ



9月10日 社保庁分限免職撤回裁判 控訴審結審報告集会

いつたいいつまでこの状態が続くのだろうと、本当に心細く、道路が開通したと聞くやいなや、さっそく町まで車を飛ばしました。山の斜面が流されて、大きなコンクリートの塊が道路のすぐそばまで迫り出し、山からの水が赤土と混ざって道路を覆い、走っていると、赤いハネが飛び散って、車が泥だらけになりました。

そんな車で町に行つてみると、なんだ、この平和な空気は！町の人たちは、私たちがここ数日間、大変な思いをしてきたことなんて、これっぽっちも知らず、普段通り、普通に生活していました。被災したことなんて、所詮、他人事なんだ！そのことを思いました。

「所詮、他人事」なのですが、それでも、苦しんでいる人、困つている人に寄り添つて、何かできることはないだろうか、と懸命に考え、行動に起こしている人がたくさんいることも、私は知っています。それは日頃から支援して下さっている皆様です。

今回の災害で、改めて心に沁みました。励ましの言葉をかけてくださつたり、お見舞い金をいたしたり、多くの方々に助けられました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

当事者にはなれないけれど、その思いは十分に伝わっていて、見知らずの我々に7年余の支援を続けて下さっていることは、感謝してもし足りないほどです。

世間に目を向けてみると、福島では7年以上経つてもまだ仮設住宅で暮らしている人々がいらっしゃるし、熊本地震の復興にも時間がかかっています。今年の夏の災害も然りです。

この方々の苦しみを風化させてはならない。

日々の暮らしで精いっぱい、とも他人のことなんて、と思わず、ほんの少しでいいから、寄り添つてほしい。忘れないでほしい。今回の災害で感じたことは、「人間はひとりでは生きていけない」ということ。切羽詰まつたときに、人間の本性が出る、ということ。

